



Dai I NAIKA News

平成 24 年 5 月 23 日

**三重大学病院
総合内科、循環器内科
消化器・肝臓内科、腎臓内科
広報誌【第 6 号】**

発行 / 三重大学医学部第一内科
〒514-8507 津市江戸橋2-174
TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201
<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/index.html>

■ ぐあいさつ

皆様、新緑の素晴らしい季節となりました。先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、患者様のご紹介を含め、いろいろお世話になりまして、誠に有難うございます。この場をお借りしまして重ねて御礼申し上げます。



伊藤 正明

さて、大学病院も新病棟での稼働も順調に進み、第一内科では、総合内科、循環器内科、消化器・肝臓内科、腎臓内科の領域を中心に、より活発な診療活動を行っていきたいと思っています。大学の人事では、この 4 月に 10 年来大学病院で腎臓内科、血液浄化療法部長として活躍してくれましたの村信介が腎臓内科、透析センター長として鈴鹿回生病院に転任となり、替わって石川英二が大学病院腎臓内科、血液浄化療法部のチーフとなりました。皆様方には引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。また循環器内科、腎臓内科の病棟主任は、中嶋寛に替わりまして岡本隆二、総合内科の病棟主任は石川英二に替りまして谷口正弥が担当させて頂いております。入院等必要な患者様がおられましたら、お気軽にご連絡いただければ幸いです。

外来では総合内科の外来をこの夏よりスタートする予定で準備をすすめています。大学病院の総合診療科もこの領域の診療を担当していますので、私ども総合内科としましては、まず、先生方から

診療をより広げて行きたいと思っています。内科領域でも臓器別領域のはっきりしないケース、複数の診療領域にわたる疾患などを、総合内科のスタッフに直接、診療の依頼を賜れば幸いです。

循環器内科では、地域医療再生基金および厚生労働科学研究補助金のサポートを受け、急性心筋梗塞の急性期治療の体制整備に関する研究を 2 年間の予定で行うこととなりました。三重県での急性心筋梗塞の発症、治療状況を解析し、発症から適切な治療をできるだけ早く受けられる体制整備にお役にたてればと思っています。先生方には、急性心筋梗塞の患者さんの情報などを教えて頂くこともあるかと思いますが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

今後とも、先生方にニーズによりお応えできるような第一内科の体制整備を整備してまいりたいと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

第一内科スタッフ



■ 循環器内科・腎臓内科 新病棟医長より

このたび第一内科・循環器腎臓内科の病棟医長を拝命しました岡本隆二と申します。私は平成 6 年の卒業で、ずっと三重県内で研修をしてきました。兵庫出身ですが、学生時代に三重が好きになり、現在に至っております。



岡本 隆二
循環器内科 講師

この 20 年弱の間に患者さんが高齢化しているのを、私も肌で感じてきました。動脈硬化性疾患が激増しており、我々の領域でも、心筋梗塞、末梢動脈疾患、大動脈弁狭窄症、腎硬化症など、罹患率の高い疾患が多く、その診療責任は重大です。そしてインターベンション治療に加え、高血圧、糖尿病、脂質異常症に対する薬剤介入と生活習慣の改善を通じて、2 次予防および 1 次予防が欠かせません。これらは開業医の先生方を筆頭に、他科の先生、他病院の先生方のご助力を頂いて、初めて可能になるものです。今後とも変わらぬご指導およびご支援の程、お願い申し上げます。

我々が先輩に教えて頂いた入院診療のスピリッツがいくつかあります。まず全身を診ることと、患者さんのところにこまめに行くことです。患者さんの訴えをきき、コメディカルの方々と診療をして、状態が悪化された場合にどれだけ速やかに、バイタルサインを維持できるかが重要です。もう 1 つはチーム医療だと思い

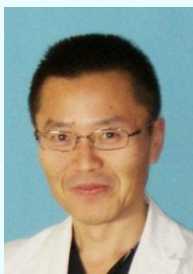
ます。複数名で同じ患者さんを診ることで、気づく点が多くなり、見逃しを極力減らし、合併症を多く見いだすことができます。そして非常にづらいですが、亡くなられた患者さんの原因がどうしてもわからない時には、剖検をお願いして、患者さんの声として、その結果をご家族にお伝えする。これらのスピリッツを受け継ぎ、伝えて行きたいと思っています。

一般内科医としての視点に加え、当院ではそれぞれの医師が専門(冠動脈・末梢動脈疾患、心不全、肺高血圧、不整脈、腎疾患)を持ち、診療に当たっています。私が医師になり 20 年弱と申しましたが、循環器病および腎臓病の原因はまだ謎だらけです。急性冠症候群、心筋症、肺高血圧症、血管炎、不整脈、慢性糸球体腎炎といった原因不明の難病に、それぞれの専門医グループが立ち向かっており、新しい診断法と治療法を開発すべくさらに精進したいと考えます。そして若い先生や医学生の方々に、循環器および腎臓疾患の面白さを伝えることが出来れば、この上ない喜びです。微力ながら、それぞれのチームの先生方と協力して、診療にあたりたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

(緊急インターベンションの適応が考えられる症例は、是非循環器腎臓内科ホットラインを活用願います。)

C型慢性肝炎の最新の治療について

現在わが国では、約190万～230万人のC型肝炎ウイルスキャリアが存在するといわれています。C型肝炎は持続感染し、慢性肝炎や肝硬変、肝細胞癌を発症させます。治療に関しては、1992年にインターフェロンが保険認可となって以来、2001年からはリバビリン併用療法の導入、また、2004年12月から



山本 憲彦
消化器内科 講師

消化器・肝臓内科病棟医長。外来は月曜日初診、水曜日再診を担当しています。

はペグインターフェロン+リバビリン療法が確立されてきました。しかし、治療法が開発されるたびにその治療成績は向上してきてはいますが、満足する治療成績とは言えませんでした。現在では治療前に治療効果を予測して治療導入するということが大切になってきました。治療効果には、患者側因子、ウイルス側因子が影響し、患者側因子では、性別(男性の方が効きやすい)、年齢(若年の方が効きやすい)、線維化進行の程度(線維化進展例は効きにくい)、また最近では、19番染色体のIL28B遺伝子1塩基多型(SNIP)が効果に影響を及ぼすことがわかってきました。またウイルス側因子としては、ウイルスのジェノタイプ、ウイルス量、最近では、ウイルスのcore領域の変異の有無、またウイルスのNS5A領域のISDRの変異数によって治療効果が予測できることがわかってきました。

当院でも臨床検査部のご協力のもとで、IL28 遺伝子多型やcore領域の変異を調べてどのくらいの確率で治療効果が得られるか、事前に予測し治療適応を考えております。検査の結果で、治療効果が少ないと考えられれば次世代の治療を待つなどの方

針をとることもできます。また2011年からはさらに治療効果の高い、プロテアーゼ阻害薬併用のペグインターフェロン+リバビリン投与が認められ始めました。これは、C型肝炎ウイルスの増殖に必要なセリンプロテアーゼを直接阻害し抗ウイルス効果を発揮するものです。当院では、C型肝炎陽性の患者様に関しては、できる限りウイルス駆除を目指した治療を行っております。もし、C型肝炎ウイルスが陽性の患者様がございましたら、まず一度は抗ウイルス療法によるウイルス駆除をお考えください。その際に万が一治療導入に関して悩まれる症例がございましたらいつでもご連絡ください。C型肝炎の治療は今起こっている症状を抑えるというよりは5年後、10年後を見据えた治療です。少しでも多くのC型肝炎をお持ちの患者様が幸せな人生を送れるように努力していきます。今後ともご指導よろしくお願ひ申し上げます。

新血液浄化療法部長

前任、の村信介先生の転勤に伴い、2012年4月より血液浄化療法部長を拝命いたしました石川英二と申します。これまで実績のない自分にこの重責が務まるかとても不安ですが、三重県の透析、血液浄化を用いた治療がさらによくなるようにがんばりたいと思います。



石川英二
腎臓内科 講師

大学病院透析室は2012年1月から新病院へ移転し、「透析センター」として活動を開始しました。透析ベッド8床、腹膜透析診察室2室が確保され、寝ながら治療を受ける患者さんにやさしい間接照明のきれいな透析センターです。透析患者さんが安心して大学病院での検査や治療を受けられるよう、入院中は全面的にサポートさせていただきます。引き続き皆様のご支援・ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

第5回 循環器・腎疾患の診療ネットワークを広げる会

テーマ：むくみの診断、血栓を見逃さない為に

場所：ベイシスカ

日時：2012年6月14日(木) 19:00～

応募方法：詳しくは循環器・腎臓内科ホームページにて

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/index.html>

過去の「Dai 1 NAIKA News」を循環器・腎臓内科ホームページより見ることができます！

●第一内科外来担当がリニューアルされました。

		月	火	水	木	金
循環器	初診	伊藤 山田 増田	藤井 後藤	岡本 荻原	中村 渡辺 中森	谷川 熊谷
	再診	谷川 中嶋 松田/土肥 PM外来 杉浦(伸)	杉浦 (英)	谷口	澤井	山田 藤井 土肥
腎臓	初診	藤本	休診	石川	村田	藤本
	再診	石川	休診	休診	休診	村田
消化器・肝臓	初診	山本			白木	
	再診	白木 杉本(和)		山本	杉本(和)	

注) 不整脈に対するカテーテルアブレーション治療目的で御紹介いただく場合は、可能な限り火曜日の不整脈外来(担当:藤井)に御紹介をよろしくお願ひ申し上げます。

PM外来=ペースメーカー外来(1,2,3週のみ)

●第一内科ホームページ

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/intmed1/>

●ドクターたちのひとりごとブログ「第一内科Café」

<http://ameblo.jp/miedailnai/>

●三重大学病院循環器内科、腎臓内科

～患者様をご紹介ください～

1 FAX 新患予約

「診療予約申込書」(三重大学医学部附属病ホームページ<http://www.hosp.mie-u.ac.jp>の「医療機関の方へ」からダウンロード可)に必要事項を記入の上、FAX059-231-5541 に送信してください。15分以内に折り返しFAXで診療予約の回答をさせていただきます。

2 緊急受診、ご相談等

下記、循環器内科、腎臓内科救急ホットラインへ直接お電話下さい。病棟主任が直接対応させていただきます。

循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先(直通)

内科外来:059-231-5146 病棟:059-231-5101

FAX:059-231-5518 研究棟:059-231-5015

患者様の紹介、相談にご活用ください。

本機関誌に関するご意見、ご質問は下記メールアドレス、または当科HPまで。

naika1@clin.medic.mie-u.ac.jp

